

令和7年第1回青森市議会定例会提出

請 願 文 書 表

請願一覧表

受理 番号	受 理 年月日	件 名	請 願 者 の 住 所 ・ 氏 名	紹 介 議 員	付 託 委 員 会
1	R7.2.20	市道のマンホール蓋の断熱化 推進を求める請願	青森市勝田一丁目12番14号 藤田 繁行	蛭名 和子 藤田 誠 小熊 ひと美	都市建設 (常)
2	R7.2.21	直営の登録博物館の設置を 求める請願	青森市本町二丁目1番10号 青森まちかど歴史の庵「奏海」の会 会長 相馬 信吉	小熊 ひと美 蛭名 和子	文教経済 (常)
3	R7.2.21	油川埠頭のバックヤードの 整備を求める請願	青森市大字新田字忍33番地 活力と魅力あふれるまちづくり推進 協議会 会長 三原 吉信	関 貴光 小倉 尚裕 柿崎 孝治 奈良 祥孝	都市建設 (常)

市道のマンホール蓋の断熱化推進を求める請願

令和7年2月20日

青森市議会議長 奈良岡 隆 様

青森市勝田一丁目12番14号
藤田 繁行

紹介議員 蛭名 和子
藤田 誠
小熊 ひと美

(請願の趣旨)

世界一の豪雪都市とも称される青森市では、豪雪を克服するために、これまでも適切な除排雪の実施や流雪溝の整備など様々な施策が実施されてきたところだが、それでも集中降雪時等には除排雪等が追いつかず、道路状況が著しく悪化する状況も珍しいことではない。

こうした豪雪期の道路状況の悪化は、日常の車両や歩行者の通行に支障が出るだけでなく、災害発生時等、例えば地震を原因とする建造物の倒壊、火災発生、津波の襲来時等には、住民の避難行動を妨げるほか、緊急車両等による消火・救護・救出活動や復旧作業等の支障になることが懸念されることから、危機管理上の課題とも考えられる。

大量の降雪に伴う道路状況の悪化の内容は様々であるが、積雪そのものに加えて、道路幅の減少、路面の不規則な荒れやうねり、凹凸の発生といった状況も多く見られるところである。それらの要因の一つとして、マンホール蓋の熱を原因とする穴状の段差も挙げられ、これによる車両のスタック、バンパーなどの破損、安全確保のための速度低下、通過時の騒音発生等、住民のQOLを著しく低下させていると言わざるを得ない。

このような段差を発生させないため、札幌市や北広島市、恵庭市、山形市など多くの雪が降る自治体において施策として採用・整備され、大きな成果を上げているのがマンホール蓋の断熱化である。

この整備には、費用も期間も相応にかかると考えられるが、確実な効果が期待できる上、豪雪期の災害発生時を含めた住民のQOL向上にも資すると思われ、何より子々孫々へ受け継がれていく有用で貴重な社会資本として大切な財産になると考えるものである。

(請願事項)

市道のマンホール蓋の断熱化を推進すること。

直営の登録博物館の設置を求める請願

令和7年2月21日

青森市議会議長 奈良岡 隆 様

青森市本町二丁目1番10号
青森まちかど歴史の庵「奏海」の会
会長 相馬 信吉

紹介議員 小熊 ひと美
蛭名 和子

(請願の趣旨)

青森市の歴史は、1625年(寛永2年)に森山弥七郎が青森開港を行ったときから始まったと言われ、今年で開港400年目を迎える。

しかし、青森市には400年の歴史や文化を伝える博物館がないが、弘前市や八戸市には立派な登録博物館が設置され、子どもたちに自分たちの歴史や文化を伝え続けている。

自分たちの生まれた町に、誇りや自信を持つためにも、その歴史や文化を知ることが大切である。

青森市は、明治以後、北海道開拓や北方への物流の拠点として、急速に発展を遂げ、全国初の公営バス運行計画や水道敷設計画、発電所建設計画など次々と全国に先駆けた事業に取り組まれた歴史がある。また、縄文時代からの様々な文化財や歴史的文物の保管・管理、さらには調査研究・展示なども行う必要があると思う。

現在、青森市には、博物館類似施設として青森市中世の館、あおもり北のまほろば歴史館、青森市小牧野遺跡保護センター、青森市民美術展示館、青森市森林博物館が設置されているが、あくまでも類似施設であり、博物館法で定める施設の基準、専門的知識または識見を有する施設の長、学芸員資格を有し、文化財の取り扱いに習熟した専任の職員が2名以上配置されていることなどの条件を満たした博物館ではなく、全国県都で唯一登録博物館のない市である。

そこで、400年の歴史や文化を語り、展示・研究し、将来の青森市を担う子どもたちが、青森市の歴史や文化を学ぶことのできる、直営の登録博物館の設置をお願いするものである。

(請願事項)

県都青森市に、直営の登録博物館を設置すること。

油川埠頭のバックヤードの整備を求める請願

令和7年2月21日

青森市議会議長 奈良岡 隆 様

青森市大字新田字忍 33 番地
活力と魅力あふれるまちづくり推進協議会
会長 三原 吉信

紹介議員 関 貴光
小倉 尚裕
柿崎 孝治
奈良 祥孝

(請願の趣旨)

青森市は今年で開港 400 年を迎え、港湾施設の整備が進んでいる。特に西部地域では、油川埠頭の国際物流ターミナル化や洋上風力基地港としての整備が進行中である。これに伴い、工事中及び整備後の施設運用においてバックヤードの確保が求められている。

候補地として、都市機能誘導区域に囲まれ、既に国道沿道は市街地が形成されている国道 7 号バイパス北側の農地部が検討されている。この地域は東側の青森港臨港道路 1 号線沿道に位置している。

この施設整備が必要である理由は、青森市は人口減少が続いており（平成 22 年から令和 2 年までの 10 年間で約 2 万 4000 人減少）、東北他県の県庁所在地と比べても減少率が突出しているため、魅力的で活力ある都市機能誘導区域の整備が急務となっていると考える。

コンパクトで持続可能なまちづくりを目指した青森市の都市再生が必要である。このため、都市機能増進施設誘導のための都市基盤整備を早急に実施する必要がある。

青森市がさらに魅力的で活力ある都市として発展するため、青森市の都市計画に基づき、以下のことを請願する。

(請願事項)

油川埠頭の整備とバックヤードの整備を開港 400 年記念事業として捉え、都市機能増進施設を誘導すべき土地を確保するため、都市計画の効果的運用を通じて、都市計画提案制度を活用し、市街化調整区域の地区計画と敷地整序型土地区画整理事業の実施を検討の上、関係機関との協議を進めること。

請願の理由説明

新青森駅北部地区を油川埠頭のバックヤードとして早急に整備することについての請願の理由を以下に説明する。

図—1 青森港の地区区分及び機能配置図



青森港の地区区分と機能配置図である。油川埠頭は最も西側にあり臨港道路1号線で国道7号に接続しており、その沿道にバックヤード候補地がある。

図—2 油川埠頭の工事計画 TBSニュースより



油川埠頭の工事計画である。国は水深12メートルに掘り下げる工事をしており県は埋め立て工事の予定である。これらの工事により国際物流ターミナルと洋上風力基地が形成される。

図—5 油川埠頭と新青森駅北部地区の臨港道路による連携



図—5は油川埠頭と新青森駅北部地区の位置関係を示す。約2.5キロメートルの距離にある。青森港臨港道路により連携している。

これらの状況から新青森駅北側の油川埠頭のバックヤード整備が求められており、「市民力＋民間力」で整備を進めるよう準備している。

以上が請願の理由である。